西暦 2025 年 2 月 7 日

重度精神疾患標準的治療法確立事業のデータの利活用に関する研究事業 研究経過／終了報告書／成果報告書

重度精神疾患標準的治療法確立事業のデータの利活用に関する研究事業
研究利活用委員会 委員長殿

所属医療機関 国立病院機構榊原病院

申請者 壁屋康洋

重度精神疾患標準的治療法確立事業（医療観察法データベース事業）において収集されたデータを用いて行う研究について、

- 継続中につき、経過を報告します。
- 終了したので、結果を報告します（終了後の成果報告の予定 あり なし）。
- 終了後に成果を公表したので、報告します。

申請 番号	MTSA-009	研究 課題名	医療観察法における退院後支援に資する研究（平林班） 分担研究 指定入院医療機関の医療や処遇の均てん化に関する 研究
研究結果（経過）： 重度精神疾患標準的治療法確立事業から、平成 17 年 7 月 15 日の医療観察法制度開始から令和 1 年 7 月 31 日までの期間に医療観察法入院処遇となり、令和 3 年 7 月 31 日時点で退院済みの対象者 2993 例のデータ（MTSA-003 で承認されたデータ）を解析した結果、以下のことが見出された。 1)32 の指定入院医療機関のうち 3 施設が有意に処遇終了が多く、5 施設が有意に処遇終了が少なかった。処遇終了率は処遇終了の有意に多い施設の処遇終了率は 31.3%、27.5%、25.7%であり、有意に少ない施設の処遇終了率は 0.0%、3.9%、7.4%、7.6%、8.8%であった。 2) 処遇終了-医療なしは 2993 例のうち 34 例に留まった。処遇終了-精神保健福祉法通院は総数 145 例であり、指定入院医療機関によっては処遇終了-通院の割合がそれぞれ 13.5%、9.9%の施設もあったが、統計的検定には N が不足した。 3) 通院処遇へ移行した事例のみの入院日数を比較すると、施設平均で 675.2 日から 1417.3 日まで分布し、一部に統計的に有意な差も認められた。 4) 診断分類ごとに処遇終了-精神保健福祉法通院の割合を見たところ、次のような結果があった。F0（器質性精神障害）と F7（知的障害）は処遇終了-精神保健福祉法通院と処遇終了-精神保健福祉法入院が共に多く、通院処遇移行が少ない。F1（物質使用障害）は処遇終了-通院が多く、通院処遇移行が少ない。F2（統合失調症圏）は処遇終了-通院と処遇終了-入院が少なく、通院処遇移行が多い。F3（気分障害）は処遇終了-入院が少なく、通院処遇移行が多い。 施設要因についてのさらなる分析ならびに指定入院医療機関の医療や処遇の均てん化が求められる。			
上記公開に際しての希望： ☒ すぐに公開してよい。 ☐ 年 月以降に公開してよい。 ☐ その他（)			

研究利活用委員会に未報告の研究成果公表実績（学会発表、論文など）：

学会発表

1. 壁屋康洋，久保彩子，前上里泰史，諸見秀太，大鶴卓，村上優，高尾碧，村杉謙次，高橋未央，斎藤勝仁，前田佑樹，伊波陽二，村田昌彦，鬼塚俊明，高野真弘，武川未怜，中辻望来，梨谷寛幸，和田美智子，榎本翔太，大居真美：指定入院医療機関の医療や処遇の均てん化に関する研究（1）～医療観察法指定入院医療機関の平均在院日数と処遇終了率に関連する要因の分析（）第20回日本司法精神医学会大会，東京，2024.5.24.
2. 壁屋康洋，前上里泰史，高野真弘：医療観察法入院医療における指定入院医療機関の医療や処遇の均てん化に関する研究（2）～職業性ストレス・多職種連携と施設要因の分析．日本心理臨床学会第43回大会，横浜市，2024.8.24.
3. 壁屋康洋，久保彩子，前上里泰史，諸見秀太，村杉謙次，鈴木未央，武川未怜，中辻望来，高野真弘，榎本翔太，村田昌彦，鬼塚俊明，村上優：指定入院医療機関の医療や処遇の均てん化に関する研究（3）～医療観察法指定入院医療機関の運営におけるNHO/NCと自治体立との比較．第78回国立病院総合医学会，大阪市，2024.10.19.

論文

1. 壁屋康洋，久保彩子，前上里泰史，諸見秀太，前田佑樹，伊波陽二，大鶴卓，村上優，高尾碧，村杉謙次，高橋未央，斎藤勝仁，村田昌彦，鬼塚俊明，高野真弘，武川未怜，中辻望来，梨谷寛幸，和田美智子，榎本翔太，大居真美：指定入院医療機関の医療や処遇の均てん化に関する研究 厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業(精神障害分野) 医療観察法における退院後支援に資する研究（研究代表者：平林直次） 令和5年度 総括・分担研究報告書(CD-ROM)，2024.

※事務局記入欄

初回申請

2023年6月5日

初回承認

2023年10月27日